

「追善の美術」展によせて

追善供養の肖像画

一 「渡辺浄慶妙慶夫妻像」と「前田菊姫像」について一

「追善の美術—亡き人を想ういとなみ—」展は、いとしえの人々が他者や自身自身の「死」をどのようにとらえ、みつめてきたのか、人の「死」に関する美術作品を通してそのいとなみの様相を紹介する展覧会です。本展では室町時代以降に描かれた肖像画を5点展示します。これらの肖像画は、いずれも亡くなった像主を追慕し供養するために描かれたものです。なかでも特別出陳作品である京都・妙蓮寺蔵「渡辺浄慶妙慶夫妻像」（京都市指定有形文化財）と滋賀・西教寺蔵「前田菊姫像」（重要美術品）の2点は、制作背景を知ることのできる貴重な作品ですので、ここに紹介したいと思います。

「渡辺浄慶妙慶夫妻像」（図1）は、「南無妙法蓮華経」の題目のもと、対座する渡辺浄慶・妙慶夫妻の肖像を描きます。男性の右側には「浄慶 齒儀 / 永禄八年十月卅日」とあり、永禄8年（1565）10月30日に亡くなった夫・浄慶の遺像であることがわかります。一方、妻の妙慶像には「逆」の文字が書き添えられていることから（図2）、妙慶が逆修のために自身の肖像を描かせたものとわかります。逆修とは、自身の死後のために、生前に予め冥福を祈るために修する仏事のことです。つまり本作品は、妻の妙慶が亡き夫・浄慶のために肖像を描かせ、その横に自身

を描いて夫の追善と自身の逆修のために供養した夫妻像ということになります。

中世以降、追善供養のために肖像画が制作されるようになりますが、特に特定の個人を描く女性像については、三十六歌仙の小野小町などを除くと、15世紀末頃に描かれた嘉楽門院（後花園天皇後宮・藤原信子）や日野富子（足利義政正室）らの肖像画が画期と考えられています。さらにこうした女性像は、夫の像を別幅に描いて一対の夫婦像とする場合が多く、藤堂高虎夫妻像（三重・四天王寺蔵）や浅井長政・同夫人（お市の方）像（和歌山・持明院蔵）といった作例が知られています。そのため、本図のように夫婦が一図に収められた肖像画は大変珍しい作例です。

さらにこうした夫婦像は、一方で父母像ともとらえることができ、夫婦の子が両親の供養として肖像画を制作する場合があります。しかし、妙蓮寺本は、妻の寿像（生きている間に描いた肖像）であることが明白であり、夫の遺像に妻の寿像を描きこむという点でひととき稀有な事例といえます。亡き夫を想う妻の愛情を直接的に感じることができるでしょう。

浄慶・妙慶夫妻の生涯については不詳ですが、本図襟背の嘉永5年（1852）の墨書銘に「妙蓮寺御本尊寄附勲功之

人也」とあり、妙蓮寺に帰依した熱心な信徒であったことがうかがわれます。本作の左端には妙蓮寺第12世・日堅の署名と花押が記されていることから、日堅存命中に供養されたものとわかり、日堅は永禄13年（1570）に遷化しているため、本作品は浄慶が亡くなった永禄8年～13年の間に制作されたものと推定されます。

もう1点の肖像画は、西教寺に伝来する「前田菊姫像」（図3）です。上座に座り、右手に白菊を執る幼女・前田菊姫を描きます。菊姫は、天正6年（1578）に加賀藩祖前田利家の六女として、利家側室の隆興院との間に生まれました。子のいなかった羽柴秀吉の養女となり、近江大津の唐物問屋西川孫右衛門重元のもとで育てられますが、天正12年（1584）8月21日、わずか7歳で早逝し、近江坂本の西教寺に葬られています。翌年には、父の利家が菊姫の菩提を弔うため、金沢城近くに西方寺を建立しています。

本作品は、菊姫の供養のため、姫の没後間もなく西教寺に納められたものです。上部の西教寺第9世・真智上人による賛文には、「金溪空玉童女肖像 / 秋風吹中花 / 交命更巨留 / 縦胎青丹質 / 庸回向看経」とあり、夭折した姫のために回向看経を怠ってはならない旨が記されています。

面部の剥落により下書き線が露出しているのは惜しまれますが、衣には銀泥により豊臣家ゆかりの五七桐紋を丁寧に描きこむなど、細やかな描写が見取れます。右手の白菊は姫の名を象徴し、上座に置かれる張子の犬・紙人形・コマなどの玩具や香合は、姫が生前愛玩した品々でしょう（図4）。無邪気に遊ぶ姫の姿を想って本図を描かせたことを察するに、幼いわが子を失った両親の深い悲しみが伝わってきます。

実はこの西教寺本を写したもうひとつの菊姫像が、先述の西方寺に伝わっています。これは菊姫の異母妹で、細川忠隆の正室となった千世姫（春香院）が、西方寺に位牌とともに奉納したものです。幼くして亡くなり、遠く離れた滋賀の地で眠る姉をしのび、故郷の金沢に連れ帰ってあげたいという妹の愛情がうかがわれます。

これらの肖像画は、夫を想う妻、そしてわが子を想う両親、姉を想う妹といった、大切な人を追慕する気持ちの結晶として制作されたものです。本展を通して、是非実際の作品をご覧いただき、故人をしのぶ人々の想いに触れていただけますと幸いです。（一本崇之）

※図1は京都国立博物館、図3は大津市歴史博物館提供。図2・4は筆者撮影。

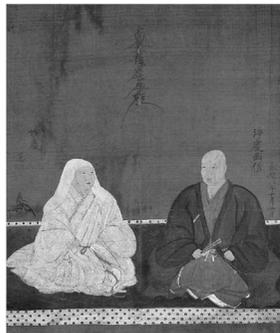


図1 「渡辺浄慶妙慶夫妻像」妙蓮寺蔵



図2



図3 「前田菊姫像」西教寺蔵



図4

季刊 美のたより No.223

令和5年 6月30日

発行 大和文華館